

内令第二十六號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ニ改定セラル

佐世保鎮守府在籍

驅逐艦 雲

驅逐艦 夕霧

佐世保鎮守府在籍

驅逐艦 陽炎

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ニ改定セラル

舞鶴鎮守府在籍

驅逐艦 朝霧

右本籍ヲ佐世保鎮守府ニ改定セラル

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十五年二月一日

内令第二十七號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

明治四十五年二月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十五驅逐隊	山 彦、文 月
第三驅逐隊	叢 雲、夕 霧、早 月
第十二驅逐隊	浦 波、綾 波、磯 波、朝 霧
第十一驅逐隊	
第十驅逐隊	薄 雲、東 雲、霞、 不知火
第十三驅逐隊	村 雨、朝 潮、白 雲、陽 炎

内令第二十八號

第十五驅逐隊

右練習驅逐隊ト定メ練習ノコトニ關シテハ海軍砲術學校長ノ指揮ヲ受ケシメラル

明治四十五年二月一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

内令第二十九號

第十驅逐隊

驅逐艦 不知火

第十二驅逐隊

驅逐艦 陽炎

右第一豫備驅逐艦ト定メ全定員ヲ置ク

第十二驅逐隊

驅逐艦 朝霧



二十

海軍

右第一豫備驅逐艦ト定メ別表ノ特別定員ヲ置ク

明治四十五年二月一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

0054

(別表)

驅逐艦特別定員表

考備	計		機關兵曹長 <small>上等</small> 機關兵曹長 <small>二等</small>	兵曹長 <small>上等</small> 兵曹長 <small>二等</small>	機關尉官	尉官	驅逐艦長 少佐、大尉 <small>(司令兼務ノモ)</small>	驅逐艦名	
	將校同相當官	兵曹長同相當官、准士官						朝	霧
一 尉官ハ航海長兼分隊長、機關尉官ハ機關長兼分隊長ノ職務ヲ行フ	三人	三人	一	一	一	一	一	一等兵曹	一
二 兵曹長 <small>上等</small> ハ掌砲長兼掌水雷長ノ職ニ充ツ	二人	二人	二 一等機關兵 二等主厨	二 二等水兵	二 二等厨宰	一 一等機關兵曹 二等機關兵曹	二 二等兵曹	二 二等兵曹	二
		三十七人		十五	一	三	二	四	二

内令第三十號

輕便電信暗號別冊ノ通改正シ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
但シ別冊ノ海軍文庫ラシテ各鎮守府兵備品會計官吏ヘ配賦セシム  
明治四十五年二月十三日

海軍大臣 男 齋藤 實

海軍

0056

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

正 誤

本年内令兵第二號戰艦及一等巡洋艦砲火指揮通信裝置制式中「本艦通信裝置」及「水雷防  
禦戰通信裝置」トアルハ各「戰艦通信裝置」及「水雷防禦通信裝置」ノ誤植ニ付キ訂正ス

明治四十五年二月十三日

海 軍 省 副 官

0057

内令第三十一號

横須賀鎮守府警備艦

軍 艦 松 江

右測量艦下定メ測量ノロトニ關シテハ水路部長ノ指揮ヲ受ケシテラル

明治四十五年二月十三日

海軍大臣 男 露 齋 藤 實

二十二

海 軍

官房機密第六八號

練習艦ノ行動其ノ他ニ關スル訓令中改正ノ件ニ付別紙ノ通海軍教育本部長へ通達候條此旨心得ヘシ

明治四十五年二月十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

(別紙)

官房機密第六七號

明治四十五年二月十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍教育本部長

練習艦ノ行動其ノ他ニ關スル訓令中改正ノ件

去ル四十二年五月九日附官房機密第二六九號ヲ以テ及訓令發候練習艦ノ行動其ノ他ニ關スル件第一項第二號中但書ヲ廢止候條此旨心得ヘシ

(一)

右通達ス

七  
内令提要五四頁參照

0059

内令第三十二號

第十驅逐隊

第一豫備驅逐艦 不知火

右警備驅逐艦ト定ム

明治四十五年二月十四日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

内令第三十三號

第十驅逐隊驅逐艦ニシテ此際警備ノ爲清國へ派遣スルモノニ限リ其ノ定員中ニ兵曹及水兵計十人、看護手筆記ノ乗組居ラサルモノニ三等看護手一人及三等筆記一人ヲ臨時増加ス

明治四十四年内令第二百號ハ之ヲ廢止ス

明治四十五年二月十四日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

二十三

海 軍

參照 明治四十四年内令第二百號ハ第十驅逐隊驅逐艦以外ニ隻ニ定員臨時増加ノ件ナリ

0060



内令第三十四號

吳鎮守府豫備艦

軍 艦 淀

右第三艦隊ニ編入セラル

明治四十五年二月十七日

海軍大臣 男爵齋藤 實

内令第三十五號

第三艦隊

軍 艦 淀

右定員中へ此際兵曹一人(高等科掌電信兵)ヲ臨時増加ス

明治四十五年二月十七日

海軍大臣 男爵齋藤 實

二十四

海軍

0061

内令第三十六號

此際第十驅逐隊司令附トシテ兵曹若ハ水兵一人(普通科卒電信兵)ヲ臨時増加ス  
明治四十五年二月二十一日 海軍大臣 男 爵 齋 藤 實



二十五

海軍

内令第三十七號

明治四十五年通信檢定實施規程左ノ通定ム

明治四十五年二月二十四日、

海軍大臣 男 露 齋 實

實

明治四十五年通信檢定實施規程

總 則

第一條 本規程ハ明治四十五年通信檢定實施ニ關スル細項ヲ規定ス

第二條 所屬長官ハ教育年度ヲ通シ一回廢下級圖其ノ他各部ノ通信檢定ヲ施行スルモノトス

第三條 掌信號兵、掌電信兵ノ各個檢定及軍艦、驅逐隊ノ一般檢定ヲ施行セサル場合ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、各個檢定

イ、掌信號兵若ハ掌電信兵ニシテ普通科掌信號證狀若ハ普通科掌電信證狀ヲ授與セ

ラシタル日ヨリ勤務ニ服スルコト三ヶ月ニ充タサルトキ

ロ、掌信號兵、掌電信兵ニシテ病氣其ノ他ノ事故ニ依リ各個檢定ニ從事スルコト能

ハサルトキ

ハ、掌信號兵、掌電信兵ニシテ前所屬長官麾下ニ在リテ當該年度ニ於ケル各個檢定ヲ完了シタルトキ

二、一般檢定

イ、軍艦ニシテ各個檢定ヲ施行セサルトキ

ロ、驅逐隊ニシテ各個檢定ヲ施行シタル驅逐艦三隻未滿ナルトキ

ハ、驅逐隊ニシテ一般檢定ニ參加シ得ヘキ驅逐艦三隻未滿ナルトキ

ニ、軍艦、驅逐隊ニシテ第一號ニ依リ乗組掌信號兵、掌電信兵ノ半數以上各個檢定ヲ施行セサルトキ

ホ、軍艦、驅逐隊ニシテ前所屬長官麾下ニ在リテ當該年度ニ於ケル一般檢定ヲ完了シタルトキ

第四條 所屬長官ハ通信檢定ニ於ケル檢定信文ノ發信檢定及檢定信號ヲ定メ檢定ノ實施ニ關シ全般ノ監督ヲ爲スヲ例トス

第五條 通信檢定ハ被檢定者ヲシテ各其ノ屬スル艦團其ノ他各部備付ノ機具ヲ使用シ施行セシムルモノトス

第六條 左ノ場合ニ於テ檢定委員檢定ノ中止ヲ命シタルトキハ檢定信文若ハ檢定信號ヲ改メテ之ヲ再行セシムルモノトス

一、危險ノ虞アルトキ

二、煤煙其ノ他舟艇ノ通行等不時ノ出來事ニ依リ檢定ノ妨害ヲ來シタルトキ

三、機具ノ破損セシ爲檢査ノ必要アルトキ

四、其ノ他必要ヲ認メタルトキ

第七條 通信檢定ニ在リテハ機具ノ毀損ヲ制止スル等ノ外被檢定者ニ對シ一切ノ助言補助等ヲ與フルコトヲ得ス

第八條 通信檢定ニ於ケル得點及成績ハ奇零以下二位迄ヲ算出シ三位ハ四捨五入スルモ

ノトス

第九條 教員及練習生タル掌信號兵並防備隊ニ於ケル掌信號兵及掌電信兵ノ各個檢定ハ之ヲ施行セス

各個檢定

第十條 各個檢定ニ於ケル檢定信文ノ種別、點數、交信時間、回数、交信距離等ヲ定ムルコト左表ノ如シ

信 號 檢 定		手 旗	種別	檢定信文 字數	全點	交 信 時 間		同送 數	同受 數	交 信 距 離		
發	光					送 信	受 信					
戰一 巡洋艦	戰一 巡洋艦	和文	和文	一〇〇	一〇〇	一分二十秒	一分十五秒以上 一分二十五秒以内	〇	一	二	一	四〇〇米
電氣發	電氣發	和文	和文	一〇〇	一〇〇	一分三十五秒	一分二十八秒以上 一分三十八秒以内	一	一	一	一	以
光信號燈	光信號燈	羅馬字	羅馬字	一〇〇	一〇〇	一分三十五秒	一分二十八秒以上 一分三十八秒以内	一	一	一	一	上
輕便信號	輕便信號	和文	和文	一〇〇	一〇〇	一分三十五秒	一分二十八秒以上 一分三十八秒以内	一	一	一	一	以
外部各部	外部各部	羅馬字	羅馬字	一〇〇	一〇〇	一分三十五秒	一分二十八秒以上 一分三十八秒以内	一	一	一	一	上

發音	和文	五〇分二十秒	一分十五秒以上	—	—	—
	和文	三〇分	二分三十五秒	二分十八秒以上	—	—
電信檢定	和文	一〇〇分	一分三十二秒	一分二十五秒以上	—	—
	歐文	一〇〇分	一分二十五秒	一分二十五秒以上	—	—
					適	宜

備  
 一、發光信號ハ日没後適宜ノ時ニ於テ施行スルモノトス  
 二、手旗及發光信號ニ在リテハ適宜雙眼鏡若ハ望遠鏡ヲ使用スルニトテ得  
 三、發音信號ハ喇叭ヲ使用スルモノトス  
 四、無線電信機ハ鑿固其ノ他各部ニ於ケル主裝置ヲ使用スルモノトス但シ要スル  
 トキハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ副裝置ヲ使用スルコトヲ得又檢定委員用トシテ自  
 働送信機ヲ使用スルコトヲ得  
 五、發光信號及無線電信ニ在リテハ其ノ機具ノ一部ニ現字機ヲ裝備シテ施行スル  
 モノトス

第十一條 檢定信文ハ送信檢定ニ在リテハ被檢定者毎ニ、受信檢定ニ在リテハ一回毎ニ  
 綴方及語ノ配列ヲ變更シ左ノ諸號ニ依リ作成スルモノトス  
 一、檢定信文ハ無意味ナルモノトシ之ヲ和文、羅馬字文及歐文ニ區別ス  
 二、和文 字數五十字ノモノニ在リテハ片假名字各一個、濁點、半濁點、長音、新章、歸

除線各一個ヲ用キ同百字、二百字ノモノニ在リテハ其ノ二倍、四倍ヲ用キ之ヲ不規則  
 ニ綴リ合スモノトス  
 三、羅馬字文 母字各二個ノ内同一ナラサル任意ノモノ七個ヲ除キ總數四十五個及同  
 一ナラサル任意ノ數字五個ヲ用キ之ヲ不規則ニ綴リ合スモノトス  
 四、歐文 母字各三個及數字各二個ノ内同一ナラサル任意ノ數字五個ヲ除キ總數十五  
 個ヲ用キ之ヲ任意ニ綴リ合セ左表ニ依リ總數二十語ヲ作成シ之ヲ不規則ニ配列シ海  
 軍無線電報取扱規約附表第二ニ依ル歐文電報ニ用ウル記號中同一ナラサル任意ノモ  
 ノ七個ヲ適宜挿入スルモノトス

一語ヲ綴リ合ハ ス母字若ハ數字 ノ個數	母	字	數	字					
	二個綴	三個綴	四個綴	五個綴	七個綴	十個綴	十三個綴	四個綴	五個綴
信文ヲ作成 スル語數	四語	四語	二語	四語	一語	一語	一語	一語	一語

歐文ヲ記載スルニハ字體ハ手書體ニ依リ一語中ノ各母字ハ之ヲ連續シ一語ト一語ト

ノ間ニ其ノ識別ヲ明ニスル爲適宜ノ間隔ヲ置キ用紙ノ左方上邊ヨリ横ニ書き始メ順次下邊ニ至ルモノトス

五、檢定信文ニ同一ナル文字、記號ヲ二個以上使用スルトキハ之ヲ重疊シテ綴ルコトヲ得ス

### 第十二條 各個檢定ノ檢定法左ノ如シ

#### 一、信號送信檢定

イ、適宜ノ場所ニ於テ被檢定者一名宛施行スルモノトス

ロ、檢定委員ハ檢定信文ヲ被檢定者ニ交付シ被檢定者ヲシテ一同之ヲ通讀シ起信符數同ヲ送ラシテ受信配置ニ在ル他ノ檢定委員ノ應信ヲ得タル後略語符「タナ」、發信番號必要ナキトキハ略語符及發信番號ヲ略ス以下敘之及句讀點必要ナキトキハ句讀點ノ點ヲ略ス以下敘之各一同ヲ送ラシメ次テ「用意」「始メ」ト令シ直ニ檢定信文ヲ送信セシムルモノトス

發光信號ニ在リテハ檢定委員ノ「用意」ノ令ニ依リ同委員附ハ現字機ヲ發動シ送信終了セハ之ヲ停止スルモノトス

#### 二、電信送信檢定

ハ、被檢定者ハ檢定信文ヲ送信シ終ラハ「終リ」ト唱ヘ檢定委員ニ報告スルモノトス

イ、所屬艦團其ノ他各部ニ於テ被檢定者一名宛施行スルモノトス

ロ、檢定委員ハ檢定信文ヲ被檢定者ニ交付シ被檢定者ヲシテ一同之ヲ通讀セシメ適宜三十秒時以内ノ時間ヲ與ヘテ所要ノ調整ヲ爲シ「用意」ノ令ニテ現字機ヲ發動セシメタル後「始メ」ト令シ被檢定者ヲシテ直ニ檢定信文ヲ送信セシムルモノトス

歐文ノ送信ニ於ケル一語ト一語トノ間隔ハ短間隔ノ五倍トス

ハ、送信中火花ノ發生止マリタルトキハ檢定委員ハ「火花不發」ト唱ヘ同時ニ同委員附ハ現字機ノ作動ヲ停止シ被檢定者ヲシテ所要ノ調整ヲ爲シ次テ現字機ヲ發動シ送信ヲ續行セシムルモノトス但シ之カ爲交信時間ヲ伸長スルコトナシ

ニ、被檢定者ハ檢定信文ヲ送信シ終ラハ「終リ」ト唱ヘ檢定委員ニ報告スルモノトス

三、送信檢定ニ在リテ規定交信時間ヲ經過スルモ被檢定者送信ヲ終ラサルトキハ檢定委員送信ヲ中止セシムルモノトス

四、信號受信檢定

イ、適宜ノ場所ニ於テ成ルヘク多數ノ被檢定者同時ニ施行スルモノトス但シ手旗及

發光信號ニ在リテハ被檢定者ヲ互ニ十五米以上ノ距離ヲ以テ配列シ被檢定者毎ニ

一名宛ノ補助員掌信兵、掌兵若シテ信號ヲ配スルモノトス

ロ、檢定委員ハ送信所ニ於テ同委員附ヲシテ檢定信文毎ニ起信符約十回ニ次テ略語

符「タナ」、發信番號及句讀點各一回ヲ送リタル後直ニ檢定信文ヲ送信シ規定交信

時間ノ範圍ニ於テ終了セシメ最後ニ終信符一回ヲ送ラシムルモノトス

ハ、被檢定者ハ手旗及發光信號ニ在リテハ信文ヲ低聲ニ讀ミ補助員ヲシテ之ヲ受信

紙ニ筆記セシメ發音信號ニ在リテハ自ラ信文ヲ受聽シツツ之ヲ受信紙ニ筆記スル

モノトス

ニ、被檢定者終信符ヲ受ケタルトキハ直ニ受信紙ヲ檢定委員ニ提出スルモノトス但

シ被檢定者補助員ヲ含ムハ受信文ヲ閱讀シ改訂シ若ハ淨書スルコトヲ得ス

五、電信受信檢定

イ、所屬艦團其ノ他各部ニ於テ被檢定者一名宛數次ニ施行スルモノトス此ノ場合ニ

於テハ成ルヘク多數ノ艦團其ノ他各部ヲ聯合スルヲ要ス

ロ、檢定委員ハ送信所ニ於テ同委員附ヲシテ檢定信文毎ニ略語符「ウケ」數回ヲ送

リ更ニ適宜三十秒時以内ノ間隔ヲ置キ起信符約十回ニ次テ略語符「タナ」、發信番

號、句讀點及略語符「キネ」各一回ヲ送リタル後直ニ檢定信文ヲ送信シ規定交信時

間ノ範圍ニ於テ終了セシメ最後ニ終信符一回ヲ送ラシムルモノトス

歐文ノ受信ニ於ケル一語ト一語トノ間隔ハ短間隔ノ五倍トス

ハ、自動送信機ニ依リ送信スルトキハ(ロ)ニ準シ穿孔符號紙ヲ作成シ之ヲ使用スル

モノトス

ニ、被檢定者ハ略語符「ウケ」ヲ受ケタルトキハ適宜所要ノ調整ヲ施シ起信符ニ依リ

調整ヲ終リ直ニ信文ヲ受聽シツツ之ヲ受信紙ニ筆記スルモノトス

ホ、被檢定者終信符ヲ受ケタルトキハ直ニ受信紙ヲ檢定委員ニ提出スルモノトス但

シ受信文ヲ閱讀シ改訂シ若ハ淨書スルコトヲ得ス

六、受信檢定ニ在リテ檢定委員附送信中殘字、脱字若ハ誤字ヲ生シタル場合ニ於テハ檢定委員ハ送信ヲ取消シ更ニ他ノ檢定信文ニ依リ送信ヲ再行セシムルモノトス但シ誤字四個以内ニシテ首席檢定委員之ヲ妥當ト認メタル場合ニ於テハ檢定委員附ノ送信シタル信文ヲ檢定信文ト看做シ送信ヲ取消スコトナシ

第十三條 發光信號送信檢定及電信送信檢定ニ在リテハ送信符ノ斷續ニ伴ヒ現字機ヲ作動セシメ其ノ印字ニ依リ成績ヲ調査スル爲使用機具ノ種類ニ應シ現字機ヲ裝備スルコト左ノ如シ

一、輕便信號燈

發光開閉裝置ニ電氣的觸點ヲ磨製シ之ニ現字機ヲ接続スルコト

二、電氣發光信號燈

イ、現字機電磁縮線ト並列ニ裝置シアル分岐縮線ヲ除去スルコト

ロ、信號燈ト電輪トノ間ニ水銀開閉器用抵抗器ヲ挿入シ之ト並列ニ現字機ヲ接続スルコト

ハ、送信中現字紙ヲシテ終始一樣ニ走出セシムル爲檢定委員ハ同委員附ヲシテ絶ヘス現字機ヲ一杯ニ捲回セシムルコト

三、無線電信機

イ、速度制限翼ヲ換裝シ若ハ之ヲ除去シ現字紙ノ走出ヲ一分間十尺以上ニ調整スルコト

ロ、四三式手働電輪抵抗器ニ現字機ヲ並列ニ接続スルコト

三、三十六年式送信機ヲ使用スルトキハ現字機電路ニ抵抗トシテ白熱電燈一個若ハ二

個ヲ挿入シ開閉器ニ並列ニ現字機ヲ接続スルモノトス

ハ、第二號(イ)ニ同シ

ニ、第二號(ハ)ニ同シ

第十四條 手旗及發音信號送信檢定ニ在リテハ被檢定者一名ニ對シ三組以上ノ檢定委員

附ヲ配置シ各組ヲシテ被檢定者ノ送信スル信文ヲ受信セシメ其ノ受信文ニ依リ成績ヲ

調査スルモノトス



第十五條 各個檢定ニ在リテ減點スヘキ事項並其ノ減點ヲ定ムルニト左表ノ如シ

減點スヘキ事項	減點
殘字	各一個ニ付 一點
不確字	各一個ニ付 二點
冗字、誤字、脱字	各一個ニ付 三點

備

一、送信中檢定者自ラ減點スヘキ事項ヲ取消シタル場合ニ於テハ減點セサルモノトス

二、信號送信檢定ニ在リテ檢定委員附ノ受信シタル信文中互ニ相一致セサル文字ヲ生シタル場合ニ於テハ左ノ諸號ニ依リ處理スルモノトス

イ、各自互ニ異リタル誤字ヲ生シタルトキハ其ノ文字ヲ誤字トシテ減點ス但シ檢定者ノ送信シタル形象若ハ符號正シキモ間隔不良ノ爲誤字ヲ生シタルトキハ之ヲ不確字トシテ減點ス

ロ、正シク解讀シタル檢定委員附多數ナルトキハ減點セス

ハ、正シク解讀シタル檢定委員附少數ナルトキハ不確字トシテ減點ス

三、電信送信檢定ニ在リテ符號正シキモ間隔不良ニシテ解讀スルコト能ハサル

考

トキハ原字一字毎ニ不確字一字トシテ減點ス

四、送信檢定ニ在リテ送信ノ全部ヲ通シ解讀シ得ルモ手旗ニ在リテハ原劔、其ノ他ノモノニ在リテハ符號ノ間隔概シテ不良ナリト認ムルモノアルトキハ送信一同ニ就キ不確字一個ト同點ヲ減點ス

五、受信檢定ニ在リテ受信紙ニ記載セル文字中字體不明若ハ拙劣ニシテ通讀シ難キ文字及ヒ誤讀ノ虞アル文字ハ不確字トシテ減點ス

第十六條 送信檢定及受信檢定ノ得點ヲ被檢定者毎ニ合算シ其ノ百分比ヲ以テ各個檢定ノ成績トス但シ減點ヲ合計シタルモノ檢定信文ノ全點ヨリ大ナルトキハ其ノ得點ヲ零ト看做シ負數ヲ加算スルコトナシ

第十七條 各個檢定ノ成績ヲ信號檢定及電信檢定ノ區分ニ依リ總圖其ノ他各部毎ニ平均シタルモノヲ以テ各其ノ集合得點トス但シ旗艦若ハ隊附増加員ノ各個檢定成績ハ其ノ乘組軍艦若ハ驅逐艦ノ集合得點ニ算入セス之ヲ當該艦隊若ハ驅逐艦ノ集合得點ニ算入スルモノトス

第十八條 各個檢定成績ノ順序ハ左ノ諸號ニ依リ定ムルモノトス

一、各個檢定得點百分比ノ多キモノヲ以テ上位トス

二、前號ノ百分比相等シキトキハ信號檢定ニ在リテハ羅馬字文、電信檢定ニ在リテハ  
歐文ノ受信得點ノ多キモノヲ以テ上位トス

三、第一號、第二號共ニ相等シキトキハ和文信號檢定ニ在リテハ和文發光信號ニ依ルモノノ受信得點ノ多キモノヲ  
以テ上位トス

第十九條 各個檢定ニ在リテハ左ノ如ク檢定委員ヲ區分スルヲ例トス

一、掌信委員

二、監督委員

三、時間測定委員

第二十條 檢定委員ノ分掌事項概ネ左ノ如シ

一、掌信委員

イ、信號送信檢定ニ在リテハ受信所ニ於テ被檢定者ノ送信スル信文ノ受信並其ノ鑑  
査ニ關スルコト

ロ、信號受信檢定ニ在リテハ送信所ニ於テ檢定信文ノ送信並其ノ鑑査ニ關スルコト

ハ、電信送信檢定ニ在リテハ送信所ニ於テ被檢定者ノ送信スル信文ノ鑑査ニ關スル  
コト

ニ、電信受信檢定ニ在リテハ(ロ)ニ同シ

二、監督委員

イ、信號送信檢定ニ在リテハ送信所ニ於テ檢定信文ノ交付、被檢定者ノ送信始終、形  
象若ハ符號ノ鑑査及被檢定者ノ監督ニ關スルコト

發光信號送信檢定ニ在リテハ右ノ外現字機ノ取扱ニ關スルコト

ロ、信號受信檢定ニ在リテハ受信所ニ於テ被檢定者ノ受信監督及受信紙ノ接受ニ關  
スルコト

ハ、電信送信檢定ニ在リテハ(イ)ニ準スル外火花ノ鑑査並現字機ノ捲回ニ關スルコ  
ト

ニ、電信受信檢定ニ在リテハ(ロ)ニ同シ

三、時間測定委員

送信時間ノ測定ニ關スルニト

送信檢定ニ在リテ送信時間ハ監督委員ノ「始メ」ノ令ヨリ起算シ又故障其ノ他誤認修正等ノ爲費セシ時間ハ總テ送信時間ニ算入スルモノトス

一般檢定

第二十一條 旗號檢定ニ於ケル檢定信號ノ種別、回數、交信距離等ヲ定ムルコト左表ノ如シ

檢定信號ノ種別	回數	交信距離	備考
號旗 三	七	四〇〇米	一、檢定信號ヲ綴ルニハ第一ノ旗號ト第二ノ旗號ト第三ノ旗號トハ旗號ノ固有ノ色ニ在リテモ二流以上ヲ隔リタルモノヲ以テスルヲ要ス 二、檢定信號ノ順序ハ各種別ノモノヲ不規則ニ配列シ又同一種別中ニ於テ區別旗ヲ使用スルトキハ其ノ位置ヲ種々ニ變更スルモノトス 三、旗號檢定ニ在リテハ適宜雙眼鏡若ハ望遠鏡ヲ使用スルコトヲ得ルモ彈著觀測鏡ヲ使用スルコトヲ得ス
別旗 一	七		
信號區 一	七	以上	
號旗 二	七	以上	

第二十二條 揚旗線（旗號檢定線ヲ含ム）ノ長サハ上滑車ノ軸心ヨリ旗懸ノ橫材ノ上縁ヲ通過スル假想

平面中心點ニ至ル距離（米）トシ所屬長官之ヲ決定スルモノトス

第二十三條 旗號檢定ハ掌信號兵ノ現在員八名（掌信號長アラサルトキハ信號長ヲ除キ八名）以上ノ戰艦及一等

巡洋艦ニ在リテハ信號員ヲ二班ニ分チ其ノ他ノ軍艦及驅逐艦ニ在リテハ信號員若ハ戰

闘部署ニ於テ信號ニ從事スル兵員ヲ一班トシ所屬軍艦若ハ驅逐艦ニ於テ砲擊中戰闘部

署ニ準シテ施行スルモノトス

第二十四條 旗號檢定ノ檢定法左ノ如シ

一、所屬軍艦、驅逐艦ニ於テ信號員ノ一班宛數次ニ施行スルモノトス此ノ場合ニ於テ

ハ成ルヘク多數ノ軍艦、驅逐艦ヲ聯合スルヲ要ス

二、起信ハ艦艇若ハ陸上ニ於テ檢定委員之ヲ行ヒ起信ノ時機ヲ示ス爲毎同齊動旗ヲ全

揚シ檢定委員ノ「上ケ」ノ令ニ依リ之ヲ降下スル時ニ檢定信號ヲ掲揚スルモノトス

但シ檢定信號ハ其ノ掲揚ノ時時迄被檢定艦ニ對シ之ヲ隱蔽シアルヲ要ス

三、信號降下ヨリ次回ノ信號開始迄ニハ各二十秒時ノ間隔ヲ置クモノトス

四、掌信號長 （掌信號長ア、フサ、ハ全般ヲ指導シ首席信號員ハ檢定信號ヲ通該シ檢定信號ヲ  
ルトキハ信號長）  
同一信號ヲ綴リ直ニ之ヲ全揚スルモノトス

五、受信燈ハ檢定信號ノ降下ト共ニ信號ヲ降下シ次回ノ準備ヲ爲スモノトス

第二十五條 左式ニ依リ毎回ニ於ケル旗旒信號ノ得點ヲ算出シ之ヲ各班毎ニ平均シタルモノヲ以テ旗旒信號檢定ノ得點トス

$$\frac{K_1 + K_2(L-l)}{T} \times 100$$

$K_1$  三旗旒ヲ連綴スルニ要スル標準時間  
 $K_2$  三旗旒連綴ノ信號ヲ一米揚クルニ要スル標準時間  
 $L$  揚旗線ノ長さ(米)  
 $T$  檢定信號掲揚ノ瞬時ニ於テ旗懸ノ横材ノ上縁ヲ通過スル假想平面ヨリ該信號第一旗旒ノ上縁ニ至ル標準距離

T 齊動旗降下ノ瞬時ヨリ三旗旒ヲ連綴シテ全揚スルニ要シタル時間  
 標準時間、標準距離ヲ定ムルコト左表ノ如シ



三十五  
海軍

旗旒ノ種類	$K_1$	$K_2$	?
四 巾	四 秒	〇・二六秒	五 米
三 巾	五 秒	〇・二〇秒	三・五米

第二十六條 旗旒信號檢定ノ得點ヲ軍艦若ハ驅逐隊毎ニ平均シタルモノヲ以テ旗旒信號檢定ノ集合得點トス

第二十七條 旗旒信號檢定ニ於ケル故障誤認ハ左ノ諸號ニ依リ處理スルモノトス

一、故障ノ場合ニ於テ豫備旗旒ヲ對絃ヨリ補充シ又ハ豫備揚旗線ヲ使用スルハ當該信號員直接之ニ任スルモノトス但シ鉤、揚旗線、旗旒ノ離脱飛散其ノ他破損シタル等ノ場合ニ於テハ他ノ兵員ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得

二、檢定信號掲揚中鉤ノ離脱ノ爲旗旒飛散シタルトキ、不必要ナル旗旒ヲ紛纏掲揚シタルトキ及旗旒ノ使用ヲ誤リタルトキハ必ス之ヲ掲ケ直スモノトス但シ旗旒ヲ倒ニ綴リタルトキハ此ノ限りニアラス此ノ場合ニ於テハ倒綴ノモノ一旗旒毎ニ其ノ交信

時間ニ各二秒時ヲ加フルモノトス

第二十八條 尉官通信檢定ニ於ケル檢定信文ノ種類、信號ノ區分並時間及點數ノ標準ヲ定ムルニト左表ノ如シ

檢定信文		信號ノ區分	
番號	種類	信文ノ數	點數ノ
一	有意味ノ漢字ノ交リ文	一級	一分五點
二	二旗說話信號	二級	一分五點
三	方位、計數、日時、官名(隊名)、船名信號	三級	一分五點
四	三旗說話信號	四級	一分五點
五	船名、官名	五級	一分五點
六	地名信號	六級	一分五點
七	船名、官名	七級	一分五點
八	地名信號	八級	一分五點
九	船名、官名	九級	一分五點
十	地名信號	十級	一分五點

三十六 海軍

考	備	方	日	時	各種中適宜所要ノモ	二級乃至六級	五級	一分五點
萬國船號	有意味ノ漢字ノ交リ文	普通字彙信號	緯字、地名、羅針、度量衡、緯度經度、晴雨計、寒暖計、數字信號	各種中適宜所要ノモ	二級乃至六級	五級	一分五點	
四	一、檢定ニ要スル規定時間及檢定ノ全點ハ本表ニ掲クル標準ニ從ヒ各種檢定信文ヲ通シ其ノ總級數ニ依リ各之ヲ定ムルモノトス							
	二、被檢定者ニ檢定信文ヲ課スルニハ前號ノ規定時間及全點ヲ示シ檢定信文毎ニ之ヲ細別シテ示ササルモノトス							

第二十九條 教育本部長ハ前條ニ依リ尉官通信檢定ノ問題三種ヲ作成シ三月二十日迄ニ所屬長官ニ送付スルモノトス

第二十條 尉官通信檢定ハ軍艦及驅逐艦ノ乗組中少尉全部ヲ同時ニ若ハ適宜數同ニ一箇所ニ集合シ檢定信文ヲ課シ規定時間ヲ與ヘ海軍信號書、萬國船船信號書ヲ使用シテ信號ヲ作爲セシメ之ヲ掲揚順序ハ英文ニ依ル提揚順序ニ列記シテ提出セシ

0073

ムルモノトス但シ萬國船舶信號ノ答案審査ハ英文萬國船舶信號書ニ依ルモノトス  
 第三十一條 尉官通信檢定ニ在リテ減點スヘキ事項並減點ヲ定ムルニト左表ノ如シ

減 點 事 項	減 點
一、信號符字ヲ脱漏シ、記載ヲ誤リ若ハ記載セサルトキ	信號符字一綴ニ付 三點
二、信號符字ノ選擇ヲ誤リタル爲檢定信文ノ意義ヲ變シタルトキ	同 右
三、信號ノ順序ヲ誤リタル爲檢定信文ノ意義ヲ變シタルトキ	同 右
四、區別旗ノ用法ヲ誤リタル爲檢定信文ノ意義ヲ變シタルトキ	同 右
五、第二號乃至第四號ノ外信號作爲ノ方法カ信號法ノ規定ニ反スル爲檢定信文ノ意義ヲ變シタルトキ	同 右
六、檢定信文ノ意義ヲ變スルコトナキモ信號符字ノ選擇信號法ノ規定ニ反スルトキ	信號符字一綴ニ付 二點
七、檢定信文ノ意義ヲ變スルコトナキモ信號ノ順序信號法ノ規定ニ反スルトキ	同 右
八、檢定信文ノ意義ヲ變スルコトナキモ區別旗ノ用法信號法ノ規定ニ反スルトキ	同 右
九、不必要ナル區別旗ヲ加ヘタルトキ	同 右

三十七  
海 軍

十、檢定信文ノ意義ヲ變スルコトナキモ第六號乃至第九號ノ外信號作爲ノ方法カ信號法ノ規定ニ反スルトキ	同 右
十一、一綴ノ信號符字ニテ作爲シ得ヘキモノヲ二綴以上ト爲シタルトキ	信號符字一綴ニ付 一點
十二、檢定信文ノ意義ヲ變スルコトナキモ不必要ナル信號符字ヲ加ヘタルトキ	同 右
十三、檢定信文ノ意義ヲ變スルコトナク又信號作爲ノ方法ハ信號法ノ規定ニ反スルコトナキモ信號符字ノ選擇適切ナラサルトキ	同 右
十四、信號作爲ニ要シタル經過時間カ規定時間ノ四分ノ三ヲ超過シタルトキ	超過時間每一分ニ付 一點

備考 信號符字一綴ニ對シテ二種以上ノ減點事項ニ該當スルトキハ最高點ノ一ニ就キ減點スルモノトス

第三十二條 所屬長官ハ前條ノ規定ニ依リ尉官通信檢定ノ成績ヲ調査スルモノトス

第三十三條 尉官通信檢定ニ於ケル各種檢定信文ノ得點ヲ被檢定者毎ニ合算シ其ノ百分比ヲ以テ尉官通信檢定ノ得點トス

第三十四條 尉官通信檢定ノ得點ヲ軍艦若ハ驅逐隊毎ニ平均シタルモノヲ以テ尉官通信檢定ノ集合得點トス

第三十五條 旗號信號檢定及尉官通信檢定ノ各集合得點並各個檢定ニ於ケル信號檢定及電信檢定ノ各集合得點ヲ平均シ之ヲ一般檢定ノ成績トス

第三十六條 一般檢定成績ノ順序ハ左ノ諸號ニ依リ定ムルモノトス

- 一、前條ノ點數多キモノヲ以テ上位トス
- 二、前條ノ點數相等シキトキハ尉官通信檢定ノ集合得點ノ多キモノヲ以テ上位トス
- 三、第一號、第二號ノ點數共ニ相等シキトキハ旗號信號檢定ノ集合得點多キモノヲ以テ上位トス
- 四、第一號、第二號及第三號ノ點數共ニ相等シキトキハ電信各個檢定ノ集合得點多キモノヲ以テ上位トス

第三十七條 一般檢定ニ於ケル檢定委員ノ區分並其ノ分掌事項ハ第十九條及第二十條ニ準スルノ外尚ホ左ノ諸號ニ依ルモノトス

- 一、掌信委員
- イ、旗號信號檢定ニ在リテハ起信所ニ於テ檢定信號ノ起信、其ノ終始並被檢定號ノ



掲ケタル受信信號ノ鑑査ニ關スルコト

ロ、尉官通信檢定ニ在リテハ答案審査ニ關スルコト

二、監督委員

イ、旗號信號檢定ニ在リテハ被檢定號ノ受信監督並受信信號ノ正否ニ關スルコト

ロ、尉官通信檢定ニ在リテハ檢定信文ノ交付並被檢定者ノ監督ニ關スルコト

三、時間測定委員

イ、旗號信號檢定ニ在リテハ交信時間ノ測定ニ關スルコト

ロ、尉官通信檢定ニ在リテハ規定時間並信號作成ニ要シタル經過時間ノ測定ニ關スルコト

第三十八條 尉官通信檢定ヲ施行スヘキ艦、隊ハ左記區分ニ從ヒ施行スヘシ

施行日期	問題ノ種類
四月一日	第一種
四月十九日	第二種

五月二十五日

第三種

考	備
一、尉官通信檢定ハ四月一日ニ施行スルヲ例トシ所管ニ於ケル年度作業計畫上 已ムヲ得サルトキハ四月十九日若ハ五月二十五日ニ施行スルコトヲ得	
二、尉官通信檢定ノ問題ハ施行期日ニ應シ特ニ指定セラレタル種類ノモノヲ使 用スルモノトス	
三、所屬長官教育本部長ヨリ尉官通信檢定ノ問題ヲ受領シタルトキハ問題ノ種 類ニ應シ檢定開始前ニ於テ適宜所要ノ員數ヲ複製スルモノトス	
四、尉官通信檢定ハ指定期日以外ノ日ニ於テ施行スルコトヲ得サルモノトス	

三十九

海軍



内令第三十八號

右第三艦隊附屬ヲ解カル

第二驅逐隊

第二驅逐隊

神風

初霧

如月

總

第一豫備驅逐艦ト定メ別表ノ特別定員ヲ置ク

明治四十五年二月二十四日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

四十

海軍

(別表)

驅逐艦特別定員表

考備	計	驅逐艦名 神風、初霜、如月、響	驅逐艦長	少佐、大尉 <small>(司令兼務ノモ)</small>	一	一等兵曹	二
			尉官		二	二等兵曹	四
			機關尉官		一	一等機關兵曹	二
			兵曹長 <small>上等</small>		一	二等機關兵	十五
			兵曹長 <small>上等</small>		一	二等水兵	二十
			機關兵曹長 <small>上等</small>		一	二等主厨	二
	將校同相當官				四人	下士	十二人
	兵曹長同相當官、准士官				二人	卒	三十七人
考備		一 尉官一人ハ航海長兼分隊長、機關尉官ハ機關長兼分隊長ノ職務ヲ行フ					
考備		二 兵曹長 <small>上等</small> ハ掌砲長兼掌水雷長ノ職ニ充ツ					

0078

内令第三十九號

佐世保鎮守府在籍

羅 遜 艦 櫻

右全定員ヲ置ク

明治四十五年二月二十六日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實



四十一

海軍

0079

丙合第四十號

第三艦隊

軍 艦 伏見

軍 艦 隅田

右定員中へ此際兵曹一人(普通科掌電信兵)ヲ臨時増加ス

明治四十五年二月二十七日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

四十二

海軍

0030

内令第四十一號

第三艦隊

軍 艦 千 早

右第三艦隊ヨリ除カル

舞鶴鎮守府豫備艦

軍 艦 千 早

右第二豫備艦ト定メ別表ノ特別定員ヲ置ク

明治四十五年二月二十八日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

四十三

海 軍

0031

(別表)

千早特別定員表

考 備	計	上等兵曹ハ掌砲長兼掌水雷長ノ職ニ充ツ	艦長	航海長	水雷隊長	分隊長	中少尉	機分隊長	機關中少尉	軍醫長	主計長	上等兵曹	機關兵曹長 <small>上等機 關兵曹</small>	上等機關兵曹	
		大主計	中佐	少佐、大尉	大尉	大尉	機關少佐 <small>大機 關尉</small>	大軍醫	大主計	一等水兵	二等水兵	三等水兵	一等機關兵	二等機關兵	三等機關兵
		三人	十一人	一人	一人	一人	二人	一人	二人	一人	一人	一人	一人	一人	
		卒	下士	一等兵曹	二等兵曹	一等船匠手	二等船匠手	一等機關兵曹	二等機關兵曹	三等機關兵曹	一等看護手	二等看護手	一等筆記	二等筆記	一等厨宰
		八十八人	二十七人	四	八	一	四	七	一	一	一	一	一	二	